【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第２部門第５区分
【発行日】平成26年2月27日(2014.2.27)

【公開番号】特開2012-232702(P2012-232702A)
【公開日】平成24年11月29日(2012.11.29)
【年通号数】公開・登録公報2012-050
【出願番号】特願2011-103951(P2011-103951)
【国際特許分類】
Ｂ６２Ｄ　25/08　(2006.01)
Ｂ６２Ｄ　25/06　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｂ６２Ｄ　25/08　K
Ｂ６２Ｄ　25/06　B

【手続補正書】
【提出日】平成26年1月14日(2014.1.14)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】請求項３
【補正方法】変更
【補正の内容】
【請求項３】
当該車両上部後端構造はさらに、前記ルーフ外装部材、後部補強部材、サイドボディ外装部材、およびサイドボディ延長部材の車内側に設置されるインナ部材を備え、
前記インナ部材は、少なくとも前記後部溶接領域に溶接作業を行うための作業孔を有していて、
前記後部溶接領域は、前記作業孔の中央側を向くよう前記インナ部材に対して傾斜していることを特徴とする請求項２に記載の車両上部後端構造。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２２
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２２】
本実施形態では、後部補強部材１２０には、他のパネル部材とスポット溶接するための６つの溶接領域が設定される。まず、天面部１２２における上部溶接領域として、第１溶接領域Ｐ１および第２溶接領域Ｐ２が設定されている。次に、縦壁部１２４における後部溶接領域として、第３溶接領域Ｐ３および第４溶接領域Ｐ４が設定されている。そして、底部１２６における底部溶接領域として、第５溶接領域Ｐ５および第６溶接領域Ｐ６が設定されている。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２４
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２４】
後部補強部材１２０の構成を詳細に説明する。図４（ａ）のルーフ外装部材１０６の上面部１２８は車両前後方向に延びていて、この上面部１２８に沿って図３の後部補強部材１２０の天面部１２２は形成されている。そして図４（ａ）に示すように、後部補強部材

１２０は第１溶接領域Ｐ１で、ルーフ外装部材１０６およびサイドボディ外装部材１０８とスポット溶接される。また、第２溶接領域Ｐ２で、ルーフ外装部材１０６とサイドボディ外装部材１０８、およびサイドボディ延長部材１１０とスポット溶接される。
【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２７】
上記説明したように、後部補強部材１２０は、ルーフ外装部材１０６の上面部１２８と後面部１３０および被覆面部１３２に沿って屈曲して各面に接触し溶接される。特に、図３に示すように、少なくとも、上部溶接領域（第１溶接領域Ｐ１および第２溶接領域Ｐ２）と、後部溶接領域（第３溶接領域Ｐ３および第４溶接領域Ｐ４）は、車両前後方向および車両幅方向において異なる位置に設けられる。「車両前後方向において位置が異なる」とは、第１溶接領域Ｐ１・第２溶接領域Ｐ２のＹ座標（例えばそれら領域間の中央のＹ座標としてよい。以下同様）と、第３溶接領域Ｐ３・第４溶接領域Ｐ４のＹ座標とが異なることをいう。「車両幅方向において位置が異なる」とは、第１溶接領域Ｐ１・第２溶接領域Ｐ２のＸ座標と、第３溶接領域Ｐ３・第４溶接領域Ｐ４のＸ座標とが異なることをいう。この構成によって、後部補強部材１２０は走行中のねじり入力を効率よく分散させることが可能となっている。